

## 読者アンケート

冬号はいかがでしたか?四季誌和装家は読者の皆さまが参加する情報誌です。  
ご希望、アイデアをお寄せいただくだけでなく、ぜひその企画を実現するために参加していただきたいと思います。

### Q1 今号で面白かった(興味深かった)記事は? (複数選択可、☑にチェックしてください)

- |                                                       |                                                  |
|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 表紙「田村一村画伯作品/アダンの海辺」        | <input type="checkbox"/> 14 和装家写真館「第2回WAKATOMO会」 |
| <input type="checkbox"/> 2 公式メルマガレビュー                 | <input type="checkbox"/> 18 アオザイ便り               |
| <input type="checkbox"/> 6 和装家写真館「銀座で会いましょう」          | <input type="checkbox"/> 20 俺の履歴書                |
| <input type="checkbox"/> 8 和装家に聞く「玉井正浩さん」             | <input type="checkbox"/> 21 寄付のお願いと2024年寄付のお礼    |
| <input type="checkbox"/> 10 文化庁後援「親子ゆかた着付体験教室」レポート    | <input type="checkbox"/> 23 NPO公式YouTubeのお知らせ    |
| <input type="checkbox"/> 11 スペシャルインタビュー(参議院議員/橋本聖子さん) | <input type="checkbox"/> 24 大活躍きものアンバサダー         |

### Q2 四季誌・和装家への意見、注文、応援コメント

#### 応募方法

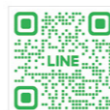
まず、このページに記入してから、右記のいずれかの方法で

方法① スマホで写真を撮って公式LINEに送信する

方法② スマホ写真を [info@omotenashi.or.jp](mailto:info@omotenashi.or.jp) に送信する

方法③ **03-3661-0007** にファクスする

方法④ 応募専用フォーマットを作りました。スマホで入力&応募ができます。  
<https://form.run/@shikishiwasonaka> 右のQRコードもご利用ください。



ご住所 〒 -	
お名前	連絡先
	メールアドレス

四季誌

# 和装家

次号「春号」vol.8は、4月1日に発行。  
みなさまのお手元には、4月5日ごろ到着予定です。



- ✉ 私も写真を出してみようかなーと思いました(奈良県・尾川さん)
- ✉ いつも楽しみにしています。皆さんとってもお綺麗で素敵♡です(岡山県・河内さん)
- ✉ 和装を愛する方々とこのように交流が持てて幸せです。和装を世界遺産への活動を通じて、お役に立たせていただければ幸いです(東京都・中山さん)

#### 編集後記

和装家のみなさん、正会員、賛助会員のみなさん、  
あけましておめでとうございます。  
当誌編集長の佐藤です。

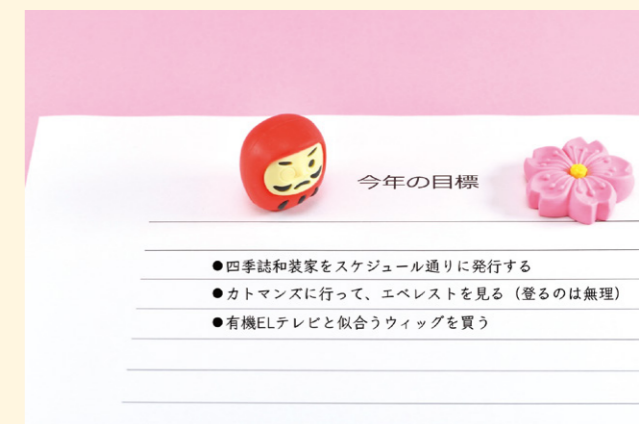
四季誌和装家2025新年号はお楽しみいただけましたか?  
私は今回、とても楽しく取材、編集させていただきました。それは多くの和装家の方をお話し、笑顔や元気をいただいたからだと思います。

実はここだけの話、本誌の編集の際、和装業界の方にインタビューしたり、紹介記事や広告を作ることも大切な仕事なんです。とっても残念ながら、あまり楽しくないことが多いんです。ネガティブ&ノーアイデアで話が悲観的スパイラルに落ち込んでしまうからです。

よくうちの大将、吉田さんと業界の方、3者でオンライン打ち合わせするのですが、まず、吉田さんと私でその場を前向きなアイデアミーティングにすることから始めなければいけません。ミーティング中、吉田さんが予告なく「佐藤さん、どう思う?」とふってくるので、瞬発力が必要ですが、これはもう35年の付き合いですからね。

和装業界にしながら、他の業界ともお付き合いしている私からすれば、和装業界は保守的な人が多くて、楽しくない、そして意外にビジネスマナーから外れていることがよくあります。さらに言えば、どうせダメだからと諦めが早いことにも驚きます。

今日、明日、売れているものが5年後に売れるとは限りませ



ん。でも今、売れていることも確かなんです。そういう意味では、なんて恵まれている業界なんだとも思います。「伝統」という重々しい言葉に、縛られるのではなく、利用しながら、たとえば和食の世界が覚醒したように、和装も続くことができるはず。私も超微力ながら残った人生のライフワークにしたいと思っています。

今回は、プレゼント企画がなくなったためか、いきなりお寄せいただいたご意見が減ったので、編集後記が長くなりました。お便りお待ちしております。

四季誌和装家編集長 佐藤正樹